

広島市立広島中等教育学校

入試科目	適性検査 1	適性検査 2－1	適性検査 2－2	面接
試験時間	40分	40分	40分	集団
配 点	100点	100点	100点	

◎適性検査 1…テーマに基づいて、文章等で表現する。

◎適性検査 2－1…資料をもとに、課題を解決する。算数的要素を中心に出题されている。

2－2…資料をもとに、課題を解決する。理科的要素を中心に出题されている。

◎合格者は適性検査、面接、志望理由書及び調査書を総合的に判断して決定する。

適性検査 1

問題 1 「訪日外国人旅行者数の推移」について、二人の生徒の会話と資料を元に探求活動を進める。

問題 2 家の中を片付ける方法を提案する文章を読んで、提案内容の良さや、提案の基づいて身近なものをどう整理するかを考える。

市立広島の適性検査Ⅰでは、数種類の資料から読み取れること（課題・理由）や、読み取った課題を解決する方法を文章で表現させる問題が出題されます。字数が指定されたマス目の解答欄に記述させるものです。また、資料に記された数値をもとに、数量や割合を計算させる問題も出題されています。文章を読み取る力だけではなく、資料を読み取る力、情報を処理する力が問われます。「適性Ⅰは作文の練習だけで十分だ」という考えでは対策にはなりません。様々な資料を読み取る能力、算数や社会科的な知識も必要です。特に今年の入試で感じたのは「気づく能力」です。資料を見て「共通する点と異なる点」・「工夫」などに気づけるかどうか問われています。

問題 1 問 1 は、「訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移」

のグラフ資料を読み取る問題です。二つの資料と会話文から正しく数値を拾って、条件通りに計算ができれば、確実に正解できる問題です。問 2 では、広島市・日本全体それぞれの訪れた外国人の出身地域毎の割合が一覧になった資料が追加され、資料から分かることを、共通点と相違点をとりあげて記述させています。字数は50字以上60字以内となっています。400字詰め原稿用紙でわずか3行。気づきや考えを、コンパクトにまとめる表現力が必要です。問 3 の資料は広島市が発行している観光パンフレットの一部分です。様々な交通機関やショップが、文字だけではなくイラストで分かり易く表現されています。「日本語の話せない外国人旅行者が、言いたいことを私たちに伝えることが出来る工夫」について記述させます。問 2 と同じく、字数は50字以上60字以内です。

問題2 家の中を片付ける独特のメソッド(こんまりメソッド)を提案する文章を読ませ、作者の片付けの考え方や方法についての理解を問う問題です。出典は「人生がときめく片づけの魔法改訂版」。作者である近藤真理恵さんは、「片付けコンサルタント：こんまり」として、世界的にかなり名の通った方です。保護者の皆様の中にもご存じの方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

問1・2は空所補充の問題。普通の国語の問題です。問3は、作者のメソッドを他人にすすめる文章を180字で記述させる問題です。この分量は作文です。しかも、「『こんまりメソッド』の良い点がわかるように」「本文にある別の片付け方法と比べて」と条件付きです。問4・5では、これ以上入らない状態の筆箱Aと筆箱Bの中身を、「こんまりメソッド」を使って整理させる問題です。理解度を問うには、やらせてみるのが一番だと言うことでしょう。適性検査ならではの問題です。

適性検査2－1

問題1 二人の会話をもとに、白地図をなるべく少ない色で、隣り合う都道府県を異なる色でぬり分ける方法を考える。

問題2 二人の会話をもとに、電気の使用量の節約について、様々な条件の下で考える。

問題3 二人の会話をもとに、サイコロの目の出方や、指定された位置に到達する方法が何通りあるかを考える。

適性2－1は、算数的要素で構成されています。適性検査では、会話形式で設問内容を説明するものが多く見られますが、市立広島は特にその傾向が顕著です。今年の適性2－1も、もちろん3題全てが会話形式です。

問題1 白地図に都道府県別に色をぬり分ける問題です。二人の会話をもとにぬり分ける際のルールを理解し、なるべく少ない種類の色でぬる方法を考えます。そう言えば、昨年10月のNHK「又吉直樹のヘウレーカ!『4色ボールペンって便利なの?』」で、四色問

題が扱われていました。平面上に区分けされた領域は、四色あればぬり分けることが出来るというものです。もし、この番組を見ていた受験生がいれば、幾らか参考になったかも……。問1は中国地方の5県をぬり分けます。あっさり3色が求められます。問2は近畿地方です。ぐっと複雑になりますが、こちらも3色でOKです。さらに、同色になる府県の組み合わせも答えさせています。市立広島の適性問題の難しさはここからです。問題3は、ぬり分けに必要な色が1色増えるように奈良県を二つに分割させる問題です。条件に

従った作業で答えが出せる問題と、解き方そのものを考えさせる問題では難易度が全く違います。思考力を問う良い問題です。解答の一例として、「奈良県を上下に分割し、分割された両側が東西にある三重・和歌山の両県と県境を接するようにする」ではどうでしょう。保護者の皆様も、ネットで白地図をダウンロードし、お子様と一緒にこの問題にチャレンジしてみてください。適性試験が計ろうとしている力の一つが分かっていると思います。

問題2 問1・2は、比例式を使う普通の算数の問題として解けるものです。決して簡単な問題ではありませんが、ここで落としてはいけません。問3は、問1・2をもとに電気の消費量を丁度600キロワット時節約することを考えます。節約を考えるのは、テレビの電気使用量(節約する電気量30%以上)と、照明器具(LED照明に付けかえる割合の%)です。それぞれ整数で求めるよう条件が付いています。この条件がくせ者でした。それぞれで節約する電気料が整数になるように、テレビも照明も5%きざみ(ここまで辿り着くにも結構な計算が必要です。)で計算すると、[テレビ80%・照明10%]という何だか格好の悪いになりました。この答えを元に、高校数学Aの不定方程式の考え方を使って1%刻みで求めてみると、条件に合う答えが全部で5通り求められました。作問された方は、小6生の受験者にどのような解き方を想定していたのでしょうか? 煩雑な計算をものともしない精神力と正確な計算力が求められる適性検査らしい問題とも言えます。

問題3 サイコロの問題です。マス目の一つひとつにアルファベットが記されたシート上を、10円硬貨を投げて、表が出たら右方向、裏が出たら後方向にサイコロを転がします。シートの左下隅の上面1からスタートします。サイコロの上面の目の出方や、特定のアルファベットの位置に到達する方法が何通りあるかを考えさせます。問1・2には目新しいものではありません。一般的な算数のサイコロ

と場合の数の問題です。問3は、上面の目が「1」から5回転がして、「1」～「6」までの全ての目が出て、なおかつ最後に「6」の目が出る方法を答えさせます。市立広島にしては問3でこの問題は、単純すぎます。「最後の6の目が出る位置として考えられる記号を全て答えなさい」くらいの出題をしてもよかったのではないのでしょうか。

公立中高一貫校の受験をお考えの皆様には、誤解の無いように申し上げます。「適性検査」という名称になっていますが、一般的な中学受験レベルの算数の実力は当然必要です。中にはかなり上位の算数の実力が求められるような問題も出題されています。求められる内容に違いはありますが、甘く見てはいけません。

適性検査 2－2

- 問題 1 いちとくとひろこさんの会話をもとに、ものを燃やしたときの気体組成の変化とろうそくが燃え続ける条件について考える。
- 問題 2 二人が心臓や血液の流れを学習した後、動脈と静脈のちがいやメダカの毛細血管の観察について考える。
- 問題 3 二人が中流の川底の土砂の観察をした後、土砂の粒の大きさと水が流れる速さの資料から流水作用について考える。

適性 2－2 は、理科的要素で構成されています。しかし、物の名称などの単純な知識を問うものではなく、いちとくとひろこさんの会話を中心に資料に基づいて考えさせ、説明させる問題になっています。

問題 1 テーマはろうそくの燃焼です。問 1 は、二酸化炭素を確認するための試薬の名前とその変化の様子を答えるものです。受験理科の基礎とも言えるものです。問 2～問 4 はろうそくの火が消えた原因についての 2 つの予想とその実験の仕方について説明することになります。1 つめは、ろうそくの火が消えるのは二酸化炭素が増えることからと予想し、ろうそくを入れる混合気体の組成を考えます。2 つめは、与えられた混合気体の組成からどういった予想をしたのか考えます。この問題での受験理科の基礎知識は空気の組成が窒素：酸素＝4：1 と、ものが燃えるために酸素が必要ということの二つだけですが、なぜ燃えるのかではなくなぜ消えたのかを考えさせる一見意地悪い問題に見えます。がよく考えられたものになっています。ただ、問 5 はこの実験についての感想をたずねた風の出題になっていますが、記述で答える際の解答条件は判断がむずかしいものとなります。受験生はどう考えたのでしょうか。結果が間違っているものの、説得力ある理由には得点があたえられるのでしょうか。気になるところです。

問題 2 心臓というより血管が中心の問題です。問 1 では資料の血管の図から動脈（心臓から送り出される血液を流す血管）がどういう構造になっているか、またなぜそうなっているのか理由を答え

る問題です。問 2 ではメダカの尾びれの血管を観察するために必要な顕微鏡の使い方について理由をたずねています。また、なぜメダカを水の入った小袋に入れて観察するのか、いずれも受験理科として学習はしていますが、その理由を自分の言葉で答えるのは少し難しかったかもしれません。

問題 3 流れる水のはたらきと堆積する粒の大きさについての問題です。問 1 では、中流域の曲がった川の川底の土砂のようすを、資料として与えられた河口付近の水底の様子を関連づけて考えるものです。問 2 は、土砂の粒の大きさと水が流れる速さのグラフから流水の 3 つのはたらき（侵食・運搬・堆積）について説明された文章を選択肢ですべて選ぶものです。資料の読み取りから正解を導くのは理由をふくめるとかなり困難な問題ですが、選択問題にして難易度を下げたのかもしれません。

多くの公立中高一貫校では、検査を文系・理系に二分してたとえば、適性 1・適性 2 とし、同一配点にしています。しかし、市立広島は理系的要素の適性 2 を、さらに算数的要素の 2－1、理科的要素の 2－2 と分け、それぞれに適性 1 と同じ 100 点を配点しています。したがって結果として、文系 100 点・理系 200 点の傾斜配点となっています。つまり理系重視ということです。入試対策としては以下の 3 点が挙げられます。

1. 中学受験用の四科（算国理社）の学習をきちんとすること。
2. 演習では、解き方・考え方が説明できるように心掛けること。
3. 過去問演習では、時間内に解き切るスピードを身につけること。